

ジャイカが新しく生まれ変わります。

2008年10月、JICAは、技術協力、有償資金協力、無償資金協力を三元的に担う新しい援助機関として生まれ変わります。このコーナーでは、新JICAの事業や体制を分かりやすく解説します。

技術協力・無償資金協力の成果を土台として

市場経済を導入したドイモイ政策のもとで保健医療改革を行ってきたベトナムでは、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率、平均寿命など基礎的な保健指標が年々改善している。改革の中で講じてきた民間医療サービスの開業許可や医療保険制度の導入、貧困者向けの保健基金設立などの対策に、各国援助機関からの援助や経済成長が相まった結果だといえる。

しかし、改善は局地的に進み、特に地方の人々は保健医療サービスがまだまだ十分に受けられずにいる。都市部と違って地方部には病院や保健所が少ない上、機材や医療従事者も不足、さらに病院のマネジメント能力が不十分であるために、保健医療サービスの質が低いことがその理由だ。

援助協力が進み、多くの援助機関がベトナムの保健医療分野を支援す

LESSON 03 援助手法の連携事例 その2

「モデル展開型」の円借款で点の成果を面的拡大へ

JICA・JBIC連携が最も盛んなベトナム。開発調査から円借款という従来の連携の形から一歩進んだ新たな「モデル展開型」の連携で保健医療サービスの質を向上させるべく、試行錯誤を重ねている。

先駆的な連携の形

この3援助手法連携の最大のポイントは、これまでの技術協力と無償資金協力に加え、有償資金協力を加え、有償的な連携を図り、「ベトナム全国で保健医療サービスの質が改善されること」を目指している。

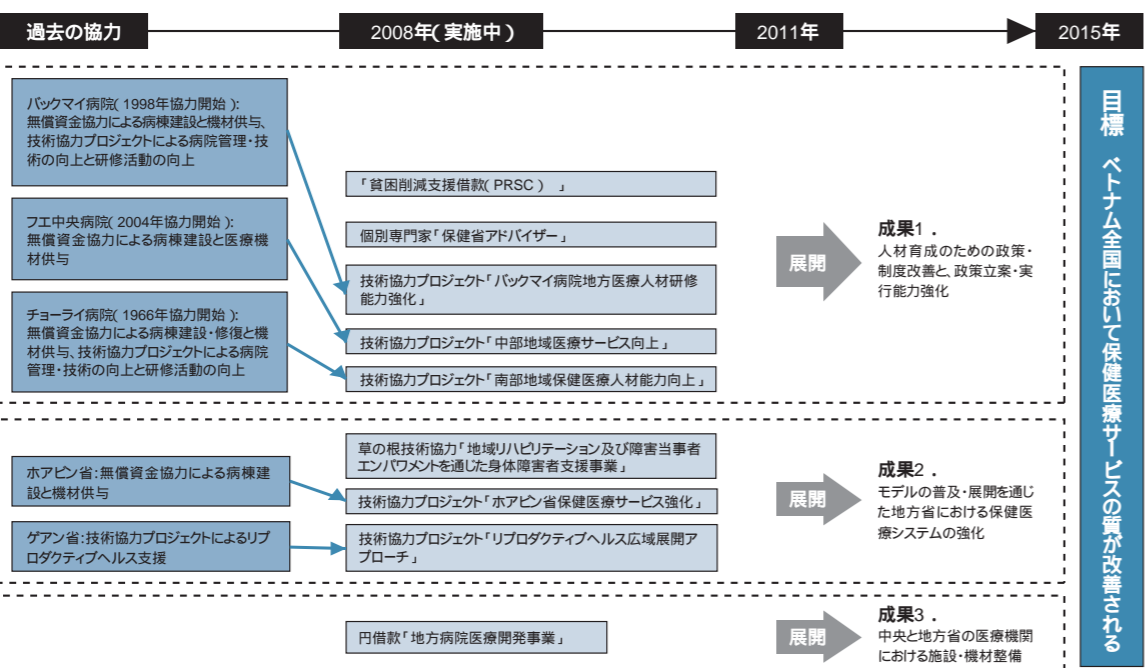
中、日本は旧南ベトナムへの協力を皮切りに、長年技術協力や無償資金協力を実施してきた。具体的には、保健医療機関に対する協力として、北・中・南部の基幹病院（ハノイのバックマイ病院・フエ中央病院・ホーチミンのチョーライ病院）に対する病棟建設や医療機材の供与のほか、医療従事者の育成、病院のマネジメント能力、地方部の医療従事者のための研修能力の強化などを行った。

協力によるモデル的な支援の「点」の成果を、円借款によって「面的」に拡大していくということ。開発調査で策定した開発事業計画の執行手段として円借款を用いる従来の「J」連携の流れから見ても、「モデル展開型」は先駆的な連携の形といえる。

円借款については、2005年度に、北部3省の地方中核病院を対象とした「地方病院医療開発事業」に借款を供与。コンサルタントとの契約が締結され、事業が本格的に動き出した。機材供与以外にも、これまでの技術協力の成果を生かしつつ、バックマイ病院などで医療従事者の研修や、医療サービスの向上とレファラルシステムの強化を図る予定。また、円借款のさらなる展開を視野に入れた計画作りもJICA専門家への協力を得ながら行う。

「日本人専門家がきめ細かく管理している技術協力プロジェクトと同様の取り組みを、円借款のもとで開発途上国政府が主体的に実施するには難しい面がある。また、スピード感や手続きなどが異なる技術協力と円借款との連携は一筋縄にはいかない。しかし、「J」連携が最も進むベトナムだからこそできる新たなチャレンジ」と東南アジア第二部の市口知英さんは連携の可能性に期待を寄せている。

ベトナム保健医療サービスの質の改善プログラム(案)



目標 ベトナム全国において保健医療サービスの質が改善される

国際協力銀行 (JBIC) や世界銀行、アジア開発銀行など複数の援助機関による協調融資。ベトナム政府と援助機関の協議の上、同国の社会開発目標の達成のために必要な政策・制度改革の項目を設定し、それらの項目に対するベトナム政府の取り組み状況を精査・評価した上で借款を供与するもの。

COLUMN パキスタンでも「モデル展開型」でJ」連携

今後への可能性を秘めた「モデル展開型」によるJ」連携。まだ事例は限られるが、パキスタンでもその試みが進んでいる。それがパキスタンの雇用の拡大と貧困削減を目指した「農業基盤・農村開発プログラム」だ。同国では、農業が基幹産業であり、貧困層は農村部に集中していることから、農村開発・農業振興が経済成長や貧困削減のカギとなる。

現在行われているのが、円借款「チェナブ川下流灌漑用水路改修事業」と技術協力プロジェクト「パンジャブ州水利行政アドバイザープロジェクト」。技術協力プロジェクトでは、円借款の事業地域で水利用や農民組織の設立・運営に関する調査を行い、ほかの地区でも適用可能な水管理組織の能力強化にかかるガイドラインを策定する。世界有数のインダス灌漑システムを要するパンジャブ州では、灌漑用水の安定供給や灌漑施設の維持管理を通じた水利用の効率化のほか、農業生産性の向上や小農の所得拡大が求められている。

このガイドラインに基づき、2009年以降、農民組織による適切な水管理のモデルをつくり実証する技術協力プロジェクト「パンジャブ州農民参加型灌漑農業強化プロジェクト」を実施する。そこで構築されたモデルは、円借款「パンジャブ州灌漑用水路改修事業」を通じてほかの地域に拡大していく。また、円借款でも行われる農民組織の能力強化には、技術協力プロジェクトで育成された指導者を活用するなど、技術協力と円借款を連携させることで、高い効果の発現を目指している。

新 JICA レッスン

about NEW JICA